

(第3種郵便物認可)

# 「支援の花」も咲かそうよ

日雇い労働者が多く住む大阪市西成区で、自立や生きがいを目的にホームレスや元ホームレスらが街頭で花を売る事業が4日、スタートする。ホームレスが街頭販売する雑誌「ビッグイシュー」とほぼ同様に、仕入れ値と販売価格の差額のほとんどが収入になる仕組み。事業を始める生花店は「花をきっかけに西成区あいりん地区の問題にも関心を寄せて」と話す。【土本匡孝】

あいりん地区でホームレス就労支援組織が運営する「まちの花屋さんBon」(西成区秋之茶屋1)が企画。市が来年3月まで、事業費の半分(最大250万円)を負担する。ホームレスらは店から花を仕入れ、利益の8割が収入になる。店は利益の2割をもらう代わりに売れ残りの花はすべて仕入れ値で引き取り、販売1グループ当たり最低1日20

## ホームレスら街頭で花売り

きょうから西成



00円を約束する。仕入れの元手は店が事前に実施した研修3日間の手当9000円だ。元ホームレスの杉田秀夫さん(49)は「弱音を吐かずに一生懸命頑張りたい。『野宿は大変なのでホームレスになってもいいくない』という思いも伝えたい」と意気込む。別の無職男性(56)は「たこ焼きや焼き芋ならともかく、街頭の花売り

に客があるだろうか」と不安を口にする。

グループで回り

利益の8割収入

店はその支援がある

間とし、手始めにホームレスら5人がリヤカー

12台と大型前かご付き自転車に分かれ、グループで回る。JR新

今宮駅周辺、西成区長

橋の街頭などで昼間、

昨年5月にオープンした店は、市道を不法占拠する屋台が並ぶ通りにある。市の撤去方針で6月以降ほとんどの屋台が閉店し、屋台

パンジーやミニバラなどを500〜2000円程度で売る。軌道に乗れば4月以降、大阪・梅田やミナミの街頭でもデビューする。昨年5月にオープンした店は、市道を不法占拠する屋台が並ぶ通りにある。市の撤去方針で6月以降ほとんどの屋台が閉店し、屋台のママに花をプレゼントする客が減少。店の収入も2割程減ったといい、「店の経営安定」も事業の狙いだ。



事前研修で、通行人に呼びかける元ホームレスら

店を運営する支援組織の事務局担当、田岡秀明さん(32)は「販売人も店もお互いにチャンス。初めてのことで、皆でアイデアを出し合って成長していきたい」と話している。問い合わせはBon(06・6634・0878)。

「ビッグイシュー」方式

大阪市も事業補助